

本教材で取り扱う書籍一覧

【ユニット1 日本人と日本語】

● 第1課

きたはらやす お
北原保雄 (編著)

『問題な日本語』 <シリーズ>

(2004-2011年、大修館書店)

国語学者・言語学者である北原保雄は、『明鏡国語辞典』という辞書の編纂チームを率いて、2004年に『問題な日本語』を出版し、その後、続編や関連書籍が出版された。『問題な日本語』はシリーズ3冊目までに計100万部を売り上げて、ベストセラーとなった。日常的に使われている日本語の表現がじつは間違っているという話や、若者の言葉遣いが乱れているといった話は、テレビ等でもよく取り上げられている。北原と執筆陣は、一般的に間違っていると言われている表現も、じつはそれなりの経緯や理屈があって生まれてきたものである以上、単純に間違いだと切り捨てるわけにはいかないとし、場合によっては正しい用法とも言えるのだということを、多数の事例を挙げて解説した。

● 第2課

さいとうたかし
齋藤孝 (著)

『声に出して読みたい日本語』 <シリーズ>

(2001-2004年、草思社)

齋藤孝は教育学者として、身体を鍛えることが近年の教育の中で軽んじられてきたことを批判している。齋藤の身体論は、単に筋力や柔軟性を鍛えるという意味ではなく、身体をバランスよく上手に使う技術を身につけることを重視している。齋藤は、優れた日本語の文章を暗誦し、朗読することが、心と身体を鍛える上で非常に重要であると主張しており、実際に子どもたちに暗誦・朗読を教える教室を開くなどしている。『声に出して読みたい日本語』は、暗誦や朗読に適していると齋藤が考える日本語の名文を多数収録したもので、ベストセラーとなった。

【ユニット2 日本人と地震】

● 第3課

こいでひろあき
小出浩章 (著)

『原発のウソ』

(2011年、扶桑社)

なかがわけいイチ
中川恵一 (著)

『放射線医が語る被ばくと発がんの真実』

(2012年、KKベストセラーズ)

ふじさわかず き
藤沢数希 (著)

『「反原発」の不都合な真実』

(2012年、新潮社)

あびひろる き つ だ だいすけ
東浩紀・津田大介ほか (著)

『思想地図β vol.2』

(2011年、コンテクチュアズ)

2011年東日本大震災後、さまざまなテーマで、震災に関わる書籍が出版された。

小出浩章は、原子力工学の研究者でありながら一貫して原子発電に批判的な立場をとり続けている異色の科学者で、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故から2カ月後に出版した『原発のウソ』では、放射線の危険性等を基礎から解説し、ベストセラーとなった。震災後の日本では原子力発電の危険性を指摘する声が強いが、放射線医療によってがんの治療等に携わる中川恵一は『放射線医が語る被ばくと発がんの真実』という書籍を出版し、今回の事故では人体に危険が及ぶような放射線被害は考えられないと指摘した。また、藤沢数希は原子力の専門家ではないが、『「反原発」の不都合な真実』の中で、各種統計を精査すると、原子力発電は火力等の他の発電方法に比べて危険であるとは言えないという主張を展開した。

震災の直後には、マスメディアの報道が現実の動きに追いつかない中で、インターネットによる情報の収集・拡散が広く利用されたが、ジャーナリストの荻上チキは、インターネット上にかなりたくさん「デマ」「流言」が飛び交ったことを指摘し、そのパターンを分析して『検証 東日本大震災の流言・デマ』という書籍を出版した。

【ユニット3 日本人とビジネス】

● 第4課

うめだもちお
梅田望夫(著)

『ウェブ進化論——本当の大変化はこれから始まる』

(2006年、筑摩書房)

『ウェブ進化論』は、2006年にアメリカのシリコンバレーでコンサルティング会社を経営する梅田望夫によって、IT分野、特にwebサービスの世界における最新の動向を紹介するために著された。日本に「Web2.0」「ロングテール」等の言葉を広める上でも大きく貢献した。梅田は、webサービスの充実によって、私たちの住む世界は「総表現社会」とも呼ぶべきものになり、一握りのエリートだけでなく「不特定多数無限大」の人々が協力することで新たな「知」の世界が切り開かれるだろうと主張した。

● 第5課

いわさきなつみ
岩崎夏海(著)

『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』

(2009年、ダイヤモンド社)

岩崎夏海は、秋元康に師事したこともある放送作家で、秋元がプロデュースしたAKB48のアシスタントプロデューサーも務めていた。2009年の暮れに『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』(通称『もしドラ』)という小説を出版し、ビジネスパーソンを中心に幅広く読まれるベストセラーとなった。『もしドラ』は、高名な経営学者で日本にもファンの多いピーター・ドラッカーの名著『マネジメント』から、組織の運営方法に関する知見を引用して、高校の野球部を率いていく女子マネージャーの活躍を描いた作品。小説のヒット後、マンガ、映画、アニメなどとしても展開され、ブームを巻き起こした。

【ユニット4 日本人と文学】

● 第6課

むらかみはるき
村上春樹(著)

『1Q84』<シリーズ>

(2009-2010年、新潮社)

村上春樹は現代日本を代表する作家の一人で、80年代に『ノルウェイの森』が400万部以上の大ベストセラーとなって以来、数々のヒット作を生み出している。小説だけでなく、ノンフィクションや翻訳書なども手がけている。2009年に出版した『1Q84』は、新作を書き下ろすのが5年ぶりということもあって発売前から大変な話題を呼び、2010年に発売された「BOOK3」までのシリーズ3冊で合計300万部以上を売り上げている。『1Q84』は、村上の小説作品としては初めて三人称で語られる物語である点も注目された。物語には、オウム真理教をモデルとした宗教団体が登場しており、カルト宗教をはじめとする過激な思想に取り憑かれる人間の心理がテーマとなっている。

● 第7課

みずのけいや
水野敬也(著)

『夢をかなえるゾウ』

(2007年、飛鳥新社)

水野敬也は人を笑わせる技術を定式化し、それを著して2003年に出版した『ウケる技術』がすでにベストセラーとなっていたが、2007年に出版した『夢をかなえるゾウ』は、180万部を超えるベストセラーとなり、ブームを巻き起こした。『夢をかなえるゾウ』は、平凡なサラリーマン生活に嫌気がさしてきた主人公が、インドの神様「ガネーシャ」の教えを受けながら日々地道な努力を重ね、少しずつ変わっていくという小説である。歴史上の偉大な人物のエピソードを交えて「成功する人間になるための秘訣」が語られており、ビジネスパーソン向けの自己啓発書として人気を呼んだ。

【ユニット6 日本人と生活】

● 第8課

かねはら
金原ひとみ (著)

『蛇にピアス』

(2004年、集英社)

わたや
綿矢りさ (著)

『蹴りたい背中』

(2003年、河出書房新社)

かねはら
金原ひとみは20歳のとき、ピアスや入れ墨による身体改造にハマる若者の過激な生活を描いた『蛇にピアス』によって、すばる文学賞と芥川賞を受賞した。この作品はその後映画化もされている。金原が芥川賞を受賞した際、同時受賞に選ばれた綿矢りさが金原よりも1歳若かったため、最年少記録は逃すこととなったが、それ以前の最年少受賞記録が23歳であったことを考えると、金原の20歳での受賞も快挙だった。綿矢りさは高校在学中に『インストール』という小説を書いてデビューし、この作品は「文藝賞」を受賞した。そして大学在学中の19歳のときに、女子高生の憂鬱な生活を描いた『蹴りたい背中』によって芥川賞を受賞(金原ひとみとの同時受賞)し、それまでの最年少受賞記録を大幅に更新した。

【ユニット5 日本人と哲学】

● 第9課

マイケル・サンデル (著) おにざわしのぶ
鬼澤忍 (訳)

『これからの「正義」の話をしてしよう—— いまを生き延びるための哲学』

(2010年、早川書房)

ハーバード大学の哲学教授であるマイケル・サンデルは、学生を巻き込んだディスカッションで道徳哲学を掘り進めている講義の様子が、NHKの『白熱教室』という番組で放送されており、日本でも有名である。2010年にはサンデルの著書の邦訳『これからの「正義」の話をしてしよう』が発売され、ベストセラーとなった。本書の中では、「1人を殺せば5人の命を救えるときに、その1人を殺すべきか」「同性婚は是か非か」といった、道徳的価値観に関わる問題について、古代以来の哲学の学説史を踏まえながら解説している。

● 第10課

みうらあつし
三浦展 (著)

『下流社会——新たな階層集団の出現』

(2005年、光文社)

マーケティングアナリストの三浦展は、ファッションビルを開発するパルコや、日本の代表的な調査会社である三菱総研等で、マーケティングや社会調査に携わった後、独自のマーケティング会社を設立してアナリストとして活躍。2005年に出版した『下流社会——新たな階層集団の出現』では、収入が低いばかりか、生活全体が活気に乏しい若者を「下流」と名付け、彼らの暮らしぶりや人生観を分析。そして、この「下流」に転落する若者たちが増加していることを、現代社会の大きな病理として指摘した。

● 第11課

なかのひとり
中野独人 (著)

『電車男』

(2003年、新潮社)

日本のインターネットサービスを語る上で、圧倒的な規模を誇る掲示板サイト「2ちゃんねる」を外すことはできない。2003年、この2ちゃんねる内の掲示板に、ある男が現在進行中の実体験を書き込み始めた。電車の中で酔っ払いに絡まれていた女性を助けたところ、その女性からお礼にプレゼントが贈られてきて、あわよくばデートにこぎ着けられるかもしれないという。男は典型的な「オタク」で女性との恋愛経験は皆無。舞い上がりながらもどうしてよいかわからない彼＝「電車男」が、2ちゃんねるを通じてたくさんの人からアドバイスを受け、初めての恋愛に挑戦する。漫画化、ドラマ化、映画化もされた、インターネット発の大ベストセラー。

*他にも、多数の書籍を通して日本の社会や文化が論じられています。